

平成30年7月20日

平成29年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園
専門学校武蔵野ファッションカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、平成29年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

1. 学校関係者評価委員

(「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出)

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
井関 理 氏 株式会社レナウン人事部部長
田中 大資 氏 株式会社クレヨン代表取締役
- ・卒業生（同第5条第2項第2号）
古本 舞 氏 萬リンク株式会社 代表
- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）
山中 哲也 氏 東京学館浦安高等学校 教頭
- ・その他校長が推薦したもの（同第5条第2項第4号）
金久保 薫子 氏 株式会社B 代表取締役

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>3つのポリシー、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」を整備し、教職員が、どのような教育を行い、どのような人材を輩出するのかを共通理解し、連携して取り組むことに努めている。</p> <p>学生に対しては3つのポリシー提示し、学生が卒業までに身に付けるべき能力を明確化することに努めている。</p> <p>【課題】</p> <p>以前の習慣で教員それぞれが自らの考えや思いに従い授業を進める状況がある。常勤教員・非常勤講師を含め共通理解が不足しており組織的な教育活動までには至っていない。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通理解を促す職員会議や講師会の開催 ・ 各科目のシラバスの3つのポリシーとの整合性を持った内容のチェック。
<p>【関係者評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「3つのポリシー」がアパレルプロフェッショナル科、ファッションスタイリング科ファッションマスター科にて受入方針から到達目標及までが明確化されていることは評価します。 ・ 常勤教員・非常勤講師の共通理解を深める具体策が見えないので具体策の打ち出しをして下さい。 ・ 「3つのポリシー」をブラッシュUPさせて、更に「具体的・客観的」に進化する事を期待します。

基準 2 学校運営	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>本校の生徒たちは距離感が近く相談しやすいことを教員に望んでおり、教員の生徒との相談対応の能力を重要視している。学園で実施するメンタルヘルスケア研修では全教員が参加しカウンセリング能力向上に励んでいる。</p> <p>専門分野においては職業実践教育の視点から教員研修として、業界で活用されているファッション情報に関するセミナーへの参加や素材産地の視察、業界向け技術向上のセミナーへの参加、夏期研修期間を利用しての技術向上を目的とした作品製作の実施等、能力向上を図っている。</p> <p>【課題】</p> <p>教員としての能力と学校運営や募集活動も行う幅広い業務運営能力が求められるのがファッションカレッジ教務部の業務である。教員ごとに得意不得意、専門性があり一律の業務は難しい面がある。</p> <p>時代の変遷に伴い生徒を送り出す先のファッション業界の業務も変わり、学生が身につけるべき必要な能力も変わりつつある。その変化に合わせて教育が出来る様、能力開発が必要である。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>人事評価を有効的に使い、学校や担当科目の課題を発見していく意識と課題を解決していける能力の開発に取り組む。</p> <p>業界の変化をつかむ情報収集が必要である。企業との連携強化に取り組む。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>各部門、各種委員会が評価アンケート、評価報告書を有効活用されている。「ファッション」とは「服」だけの事でなく、「世の中の変化」のことで、しっかりと「世の中の変化への対応」を検討されている。</p>

基準3 教育活動	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>実践教育 ～ P D C Aサイクル (plan-do-check-act) の実践</p> <p>14年前より実践教育を掲げ『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』を複合的カリキュラムの成果発表としてP D C Aサイクルに法って行ってきた。その効果により年々作品のレベルは向上し、カジュアルファッションやリアルクローズの表現では一定の成果を上げるものとなっている。また、成果発表自体の運営を学生が主となり運営することで「社会人基礎力」向上の機会としても生かしている。</p> <p>【課題】</p> <p>以前に比べ学生の質が変わってきており、学生達の受けてきた高校までの教育内容も昔に比べ進化している。社会が変わり価値観が変わり、今までどおりの教育の考え方や手法が通用しなくなってきている。社会状況に合った人材育成となるよう、本学の特徴・強みを見極め、教育手法の更なる進化が必要である。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>ファッション業界と整合性をもったカリキュラムとしていくため、企業との連携を活用していく。</p> <p>社会人基礎力の評価と作品評価に対しルーブリックを導入し、学生自身が成長を実感し、主体的に学習していく運営へ移行させる。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>当社も「P D C A」を基に、計数管理及び業績評価を実施し、「実行力強化」を掲げている。御校でも社会人基礎能力との融合との定義の基、適切に活動されている</p>

基準4 学修成果	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p><u>就職について</u></p> <p>販売職に関しては、順調に内定獲得をしていったが、一部の学生が苦戦していた。12月～3月にかけて行われる追加募集に向け、学生が諦めないようサポートを続け卒業までに1名を残すことにはなったが大半が内定獲得に漕ぎ着けた。</p> <p>スタイリストでの就職希望者は、離職につながる安易な選び方をさせず、受け入れ先となるスタイリストとのマッチングを図り、卒業間際になったが勤務先を決定できた。</p> <p>企画・生産職希望者は、全員が卒業前には就職を決めている。例年、都内勤務をしたがる学生が多いが、地方で活動する製造業からの求人にも目を向け、地域ではなく業務内容で会社選びができたことが要因である。</p> <p>【課題】</p> <p>就職活動の遅れが出ないように学生には早期に活動させる指導、内定獲得が難しい学生に対して本人の適性に合わせた企業紹介に力を入れる必要がある。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>全体的に就職指導スケジュールを早め、2月末には受験企業を選定し、面接試験に望める到達レベルを目指す。定期的な就職個別相談を行い、学生の活動遅れを出さない指導に努める。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と企業のマッチング等も検証し、手厚く対応されている。当社では、販売社員の新卒採用が原則対象となり、御校OBの当社社員等を有効活用して今後パイプ形成に繋げていきたい。 ・高等学校側から見て就職実績は大変良いと評価する。継続に努めてほしい。 ・複数の企業から内定を獲得する学生が出てきているが、学生の内定辞退により企業と学校の関係が悪くならないよう、配慮は必要。

基準 5 学生支援	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p><u>退学について</u></p> <p>精神的疾病により登校が困難になったケースや友人関係に悩んだケースが例年より多く退学者は例年より多くなった。</p> <p><u>資格取得について</u></p> <p>ファッション業界での就職を考えると資格が直接的に内定獲得に有利となることはないが、企業によっては努力の実績として資格取得を評価することもあり本校では取得を推奨している。</p> <p>【課題】</p> <p><u>退学について</u></p> <p>少人数制に魅力を感じ入学する学生が多く、少人数のクラス運営をしているが、友人関係で問題が起きた際、クラスという枠組みでは孤立しやすくなるデメリットが見えてきた。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>友人が少ないことで学校に来る楽しさが薄れ、授業への遅刻欠席が増える状況が見えている。クラス・学科・学年での親睦を図る行事を実施し改善に努める。</p> <p>メンタルヘルス診断を活用した面談の実施と、問題発生時には担任だけの負担にせず組織的な対応に務める。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>退学率の目標値は未達であったが、資格取得の奨励は人材付加価値に繋がる有効施策。学生との「関係性・コミュニケーション」の重要性を明確化し対応されており、今後は卒業時アンケート等を有効活用して更なる進化を期待する。</p>

基準6 教育環境	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>3号館401教室にパターンメイキングやデザイン画の授業に必要な大型黒板を設置した。ミシンは既存のものが修理対応不可となったため、平成27年度から3年計画で新規機種に入れ替えを行っていた。平成29年度は3回目の購入となりミシンの入れ替え計画は完了した。</p> <p>【課題】</p> <p>校舎をはじめ机、椅子といった備品類も老朽化している。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>必要備品に関しては予算組しリニューアルしていく。校舎については法人全体での検討事項であり、学園事務局と協議中である。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化等、適切に環境整備に対応されていますが、受験生から見ても校舎は新しく綺麗な方が良く、学生募集の視点からも老朽化対策を捉えた方がよいでしょう。 ・ 高等学校では授業にタブレット端末の利用が広がりつつあります。授業内容にもよりますが、今後の導入を視野に入れるべきでしょう。

基準7 学生の募集と受け入れ	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>体験入学参加者に対する出願率目標は未達成ではあるが、出願数は昨年度を上回ることができた。また、平成 28 年度に落ちこんだ体験入学参加者数も平成 29 年度にはプラスに転じている。参加者を増やす施策に効果があったと考えている。</p> <p>施策 1：募集イベント『武蔵野フェス』の実施 施策 2：「職業教育の質保証」という観点での訴求 施策 3：在校生から学校の魅力が伝わる運営手法の向上</p> <p>【課題】</p> <p>課題はやはり体験入学参加者数を増やし歩留まりを上げることである。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>出願者から厳しい目で競合校と比較検討されることを考え、本校の強みの打ち出しと、その強みの伝え方を学園広報部と連携して構築していく。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>・高等学校との繋がり及び SNS 等の活用の「具体策」が今後は不可欠と認識する。特に、学生のみならず、対象学生の父母等に対する、アクションも重要と考える。</p>

基準8 財務	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>18歳人口減少の影響を考慮しすると大幅な収入増は難しい状況である。教育機関といえども収支均衡が望ましい。学園では予算制度の見直しとして予算委員会が立ち上がり適正な予算分配を図っている。</p> <p>【課題】</p> <p>教育機関といえども収支均衡が望ましい。</p>
【改善のための方策】	<p>収入増のための入学者を増やす努力と予算削減のため優先順位を精査した予算組みと予算執行を行う。</p>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題を認識の上、適切に運営されている。 ・18歳人口減少の状況を変えることは難しいが、各大学が行っているような、セカンドアカデミーのように、一般の方向けの公開講座などを開講するなども収入増の手段となる可能性もある。昨今、子育てを終えた主婦層などが再度、洋裁技術を身に付けたいという傾向も見られる。一般向け講座の開講により、地域とのつながりも広がり基準10の社会貢献との結びつきも拡大する。

基準 9 法令等の遵守	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>平成 28 年度に文科省委託事業「分野別第三者評価」を試行としてではあるが受ける機会を得て受審をした。産業界、同分野校から厳しい視点での評価であったが、「職業実践専門課程として適切な運営がなされている」と評価を受けている。平成 29 年度はその維持に努めている。</p> <p>【課題】</p> <p>教育の質保証として継続していくことが必要である。教務部で行うには負担が多い。</p>
【改善のための方策】	<p>第三者評価は教育の質保証として継続して受けるものである。数年後に評価機構の第三者評価受審を検討する。</p>
【関係者評価】	<p>分野別第三者評価からも高評価を受けており、適切に対応されている。</p>

基準10 社会貢献	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>豊島区主催のよさこい祭りやソメイヨシノ親善大使の審査員としての協力を継続して行っている。また、豊島区の関連の文化事業団体、財団法人としま未来文化財団とのパイプも出来ているので今後も学校の特性を生かした地域協力を継続して行っている。</p> <p>豊島区専修・各種学校協会（豊専各）や東京都専修・各種学校協会（東専各）に理事や評議員を派遣（前者は事務局も本学園で担当）。</p> <p>豊島区の文化事業『国際アート・カルチャー都市実現』のための特命大使として理事長、本校校長が就任。</p> <p>【課題】</p> <p>社会貢献は学園で掲げる人格教育に重なる内容であると学校では捉え、ボランティア活動や地域や社会への貢献する意識を育成する仕組み作りが必要と考える。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>『人格教育』の一環といえる内容であるので、カリキュラムで取り入れることを検討。尚、学園として『人格教育』の具体化に向けた委員会を設置し取り組みを継続中である。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>ボランティア活動や地域や社会への貢献する意識のもと「人格教育」に基づき、適切に検討・対応されている。</p>

以 上